

京都府管工事工業協同組合青年会

平安神宮・琵琶湖疎水周辺清掃

担当者 東光 正弘
実施日 平成19年11月17日(土)
参加者 18名(青年会会員12名 子供6名)



パパそこにも落ちてるやん



たのむわ 自分で歩いてくれよ～

そう その姿勢



観光シーズンの平安神宮前で集合

毎年、京都府管工事工業協同組合では『全国水道週間』にあわせてボランティア活動事業として親組合と青年会が合同で、組合周辺にある琵琶湖疏水周辺と鴨川河川敷周辺の清掃活動を実施しています。

今年は、全国水道週間以外でも同じようにボランティア活動として、琵琶湖疏水・鴨川周辺だけではなく観光名所周辺の清掃活動を実施することにしました。

全国にはたくさんのお名所旧跡がございますが、京都にも有名な名所旧跡といわれる観光地が点在しております。

でも、この秋の観光シーズン真っ只中の京都はどうだろうということから気になりました。

『地元の人以外にぎょうさん観光に(人が)来てるはずやから、ゴミも落ちてるで』という勝手な方程式？ あえて琵琶湖疏水周辺から平安神宮という超定番観光コースの清掃をやってみようという事になりました。

当日は天候も良く、11月とは思えないほど暖かく、観光客も多いなか、青年会会員10名他、奥様2名、子供6名の総勢18名がハサミ・京都市指定ゴミ袋を両手に持ちスタート致しました。

一昔前なら定番観光地といえば、排水溝近くにたばこの吸殻やガムが捨ててあったり、空き缶等が落ちていたり、ゴミ箱から溢れていたような記憶があったのですが、その記憶

は過去の産物であったのかもしれませんが。

昨今の世間でいう喫煙条例や分煙化の傾向から始まった喫煙マナーが向上したためか、はたまた周りの目があるからなのか、ほとんどゴミが落ちていない状態でした。

落ちていたのは書いて字の如く落ち葉だけでした。落ち葉が周りの景色とマッチしていて違う意味で大変きれいでした。

参加して頂いた我々は勿論、子供たちにはちょっと物足りない感じでしたが、たまに落ちていた吸殻等のゴミを見つけると非常に嬉しそうに拾い、自慢げに父親や母親へ話していたのが、とても微笑ましい光景でした。

観光地周辺地域は、比較的きれいなところが多いという事は、それなりに予想はしていましたが、その光景が当たり前のように写りました。これはボランティアの方々や住民の皆様が日々清掃をなされていたように感じました。

観光名所を含め、町をきれいにする事は勿論大切なことなのです。何かをキレイにしようとする気持ち、またきれいにしたいという気持ちを、我々が自覚し、次の世代へ伝えるようにしなければなりません。

我々は、これからもこの活動を定期的に行っていますが、活動を通じてではなく日常生活の中でも日課のように出来るようになっていくことが、小さい活動ではありますが、ひいてはエコロジーにつながると思います。